

企業公式アプリの今がわかる！

OMOアプリ白書 〈2020秋版〉

2021年1月22日

株式会社ロケーションバリュー

目次

1. はじめに
2. 分析根拠
3. 業界別 アプリアクティブユーザー数
4. 業界別 アクティブユーザーの多い企業ランキング
5. 企業公式アプリ開発の背景
6. 企業公式アプリ活用状況
7. 企業公式アプリ運用中の課題

1. はじめに

本書は、SaaS型アプリ開発サービス「ModuleApps」を提供する株式会社ロケーションバリューが、その事業運営を通して蓄積したデータを分析した資料です。

これからアプリを作ろうとしている企業や、すでにアプリをお持ちの企業、OMO（Online Merges with Offline）を進める企業のマーケティングご担当者様のお役に立てば幸いです。

2. 分析根拠

■対象期間

2021年10月1日～12月31日

■データ

①MAU (Monthly Active User)

ロケーションバリューが提供するアプリ市場と利用動向分析サービス「SmaRepo (スマレポ)」が持つ、250万件以上のユーザーログデータより算出

②企業公式アプリ開発目的

ロケーションバリューへ寄せられたアプリ開発に関するお問い合わせデータを分析

③企業公式アプリ活用状況

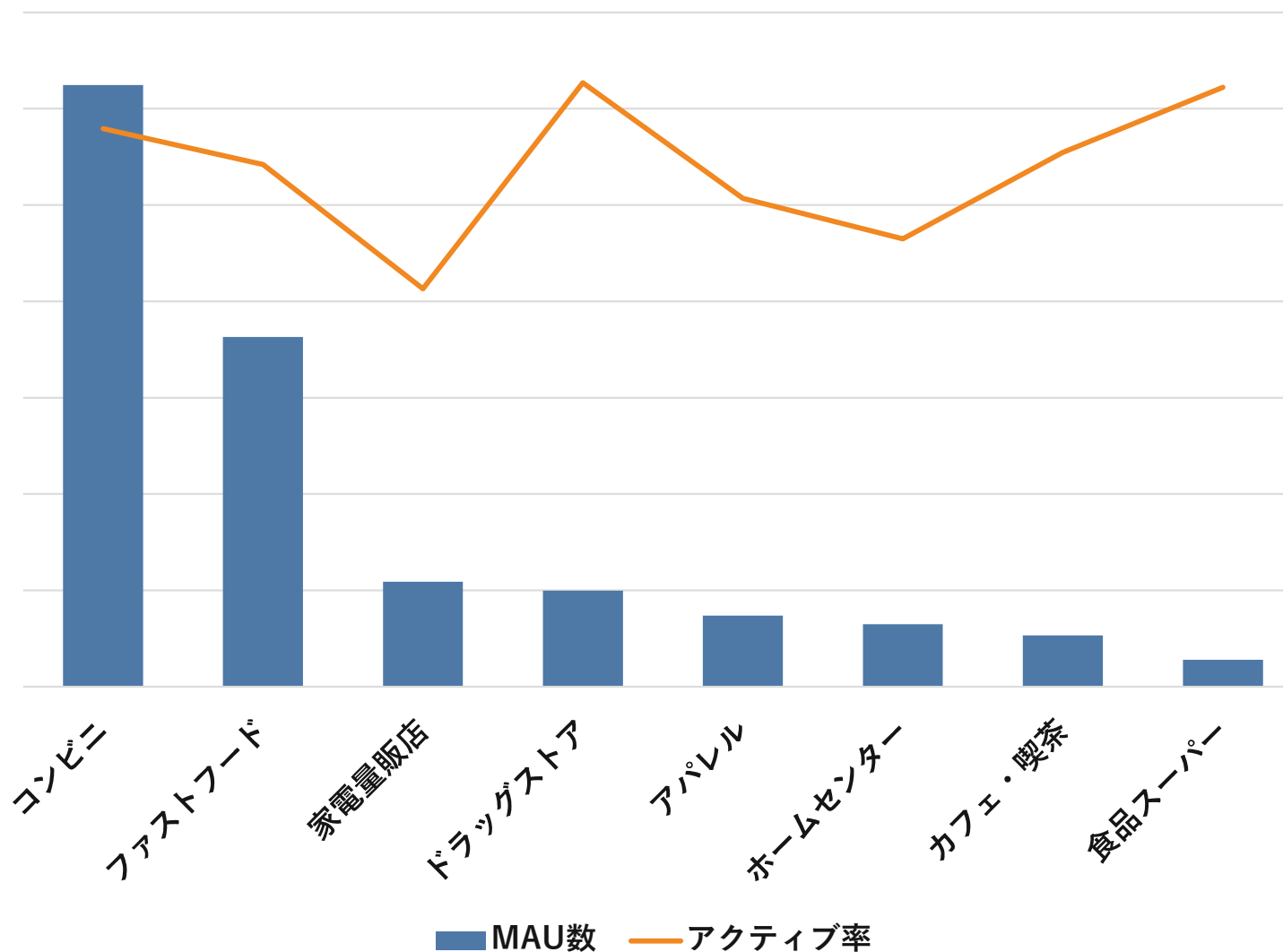
ロケーションバリューが提供するSaaS型アプリ開発サービス「ModuleApps」のログデータを分析

④企業公式アプリ運用中の課題

ロケーションバリューが提供するSaaS型アプリ開発サービス「ModuleApps」利用中のお客様よりカスタマーサポートに寄せられたお問い合わせデータを分析

3. 業界別 アプリアクティブユーザー数

- ・ MAU（1か月に1度でもアプリを起動した人の数）はコンビニがダントツで多い。来店頻度が高いため、アプリ起動率も高いと考えられる。
- ・ アクティブ率（MAU/ 総ダウンロード数）は業界による差は少ない



4. 業界別 アクティブユーザーの多い企業ランキング

▼アパレル

1	ユニクロ
2	ジーユー
3	パル

▼カフェ・喫茶

1	スターバックス
2	サンマルク
3	ドトール

▼コンビニ

1	セブンイレブン
2	ローソン
3	ファミリーマート

▼ドラッグストア

1	マツモトキヨシ
2	スギ薬局
3	ココカラファイン

▼ファストフード

1	マクドナルド
2	ケンタッキー
3	モスフード

▼ホームセンター

1	ニトリ
2	カインズ
3	DCM

▼家電量販店

1	ヤマダ
2	エディオン
3	ケーズ

▼食品スーパー

1	イオン
2	イトーヨーカドー
3	イズミ

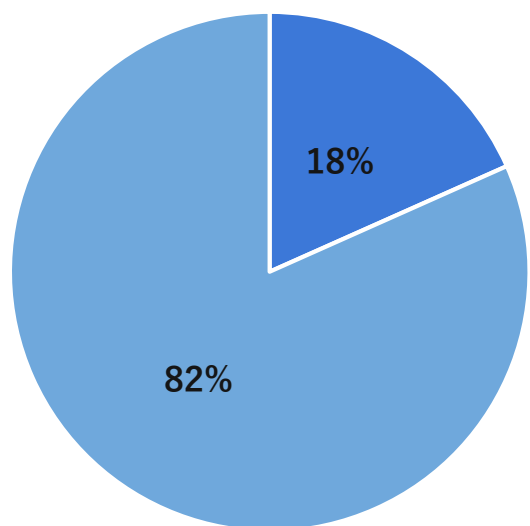
※企業正式名称ではなく、略称にて記載

※期間：2020年9月～2020年11月

5. 企業公式アプリ開発の背景

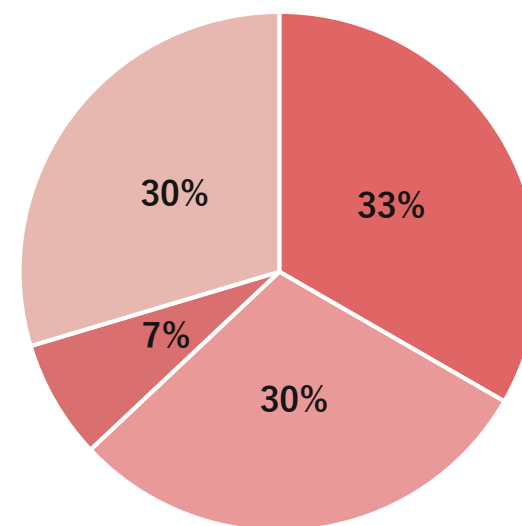
- ・ 既存アプリの改修よりも新規アプリ開発を検討する人の方が多い（左図）
- ・ アプリの開発目的はデジタル接点強化（お店以外の顧客接点づくり）が最多だが、コロナの影響でアプリを使った新事業を検討する企業も多い（右図）

アプリ開発内容



■ 既存アプリの改修 ■ 新規開発

アプリ開発目的

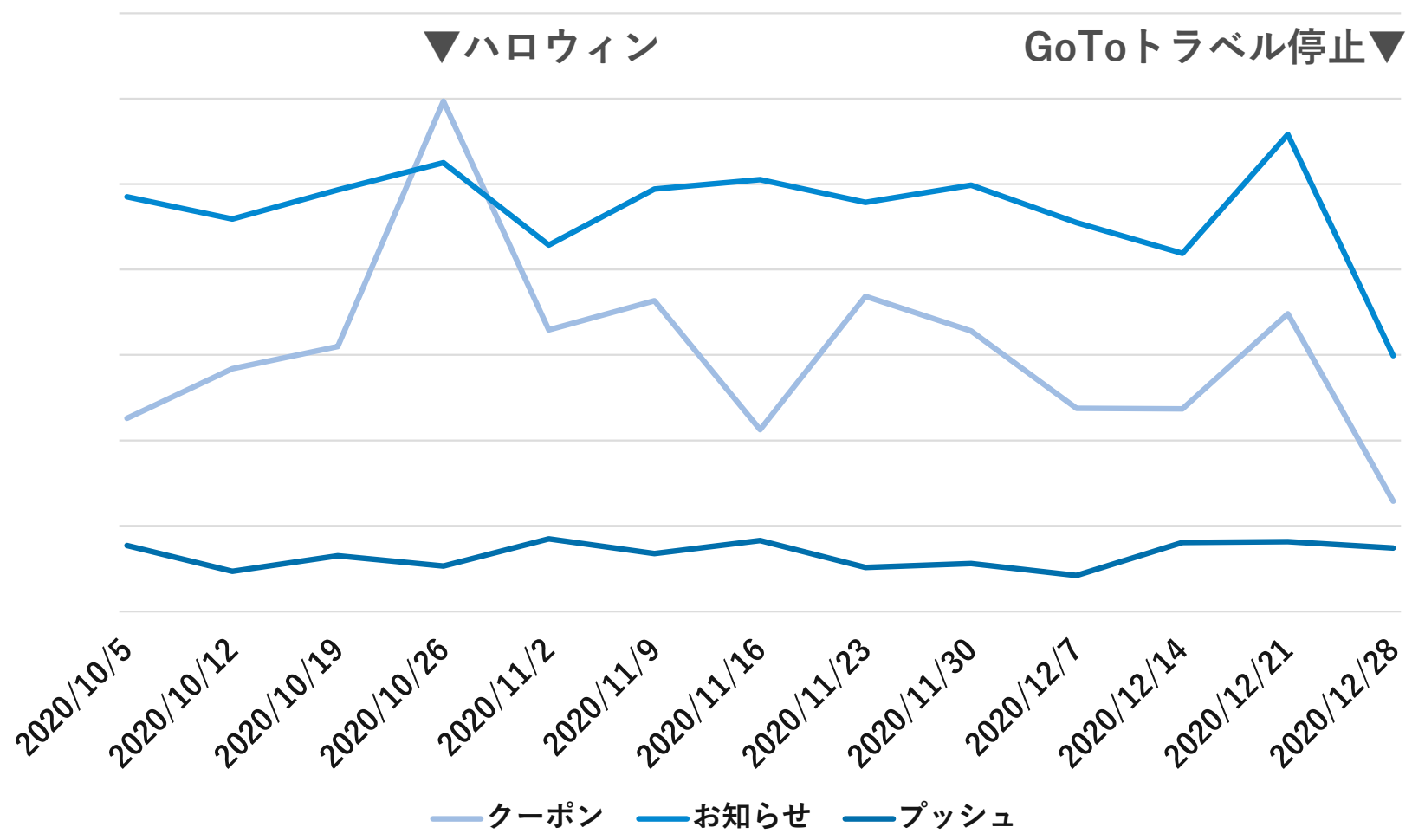


■ デジタル接点強化 ■ 新事業 ■ データ収集・分析 ■ その他

6. 企業公式アプリ活用状況

- ・ 10月末のハロウィン時期にクーポンの配信数が急増
- ・ 12月末はGoToトラベルの停止など、コロナ感染者数の増加を受けてアプリ活用も停滞

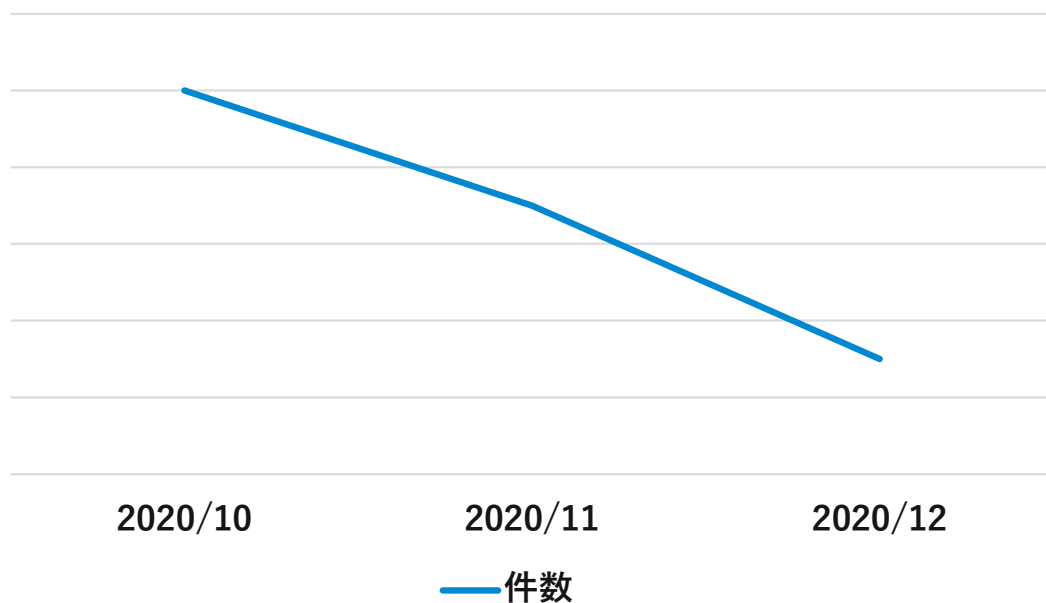
ModuleAppsのクーポン・お知らせ・プッシュ配信数



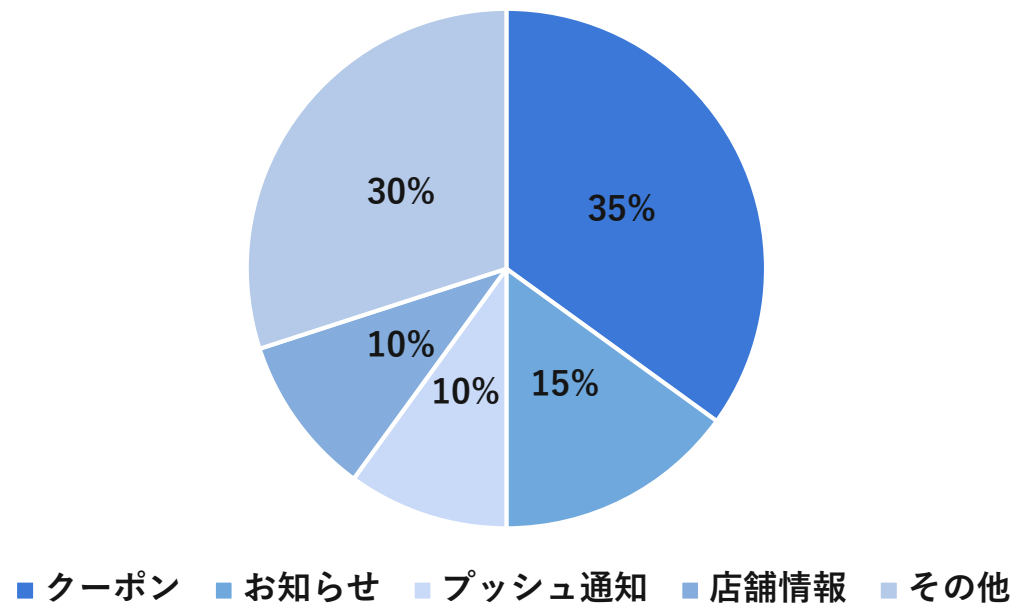
7. 企業公式アプリ運用中のお客様からのお問い合わせ内容

- ・ アプリ運用中のお客様からのお問い合わせは年末にかけて減少（左図）
- ・ お問い合わせが最も多いのはクーポンの配信方法、次いでお知らせ掲載（右図）

アプリ運用中のお客様のお問合せ件数



お問い合わせ内容



Location  **VALUE**